

# 読む医療 専門医が語る現代病気事情

## 胃がん治療の進歩

日本でがんといえば、かつては胃がんが圧倒的でした。最近では減少傾向にあります。依然として多いのが現状です。日本人は、ピロリ菌の感染率が高く、胃がんになりやすいと考えられています。若人たちには感染はあまり多くありません。その意味では、胃がんは中高年の病といえるかも知れません。ちなみに、ピロリ菌に感染しているかどうかは簡単な検査で分かります。

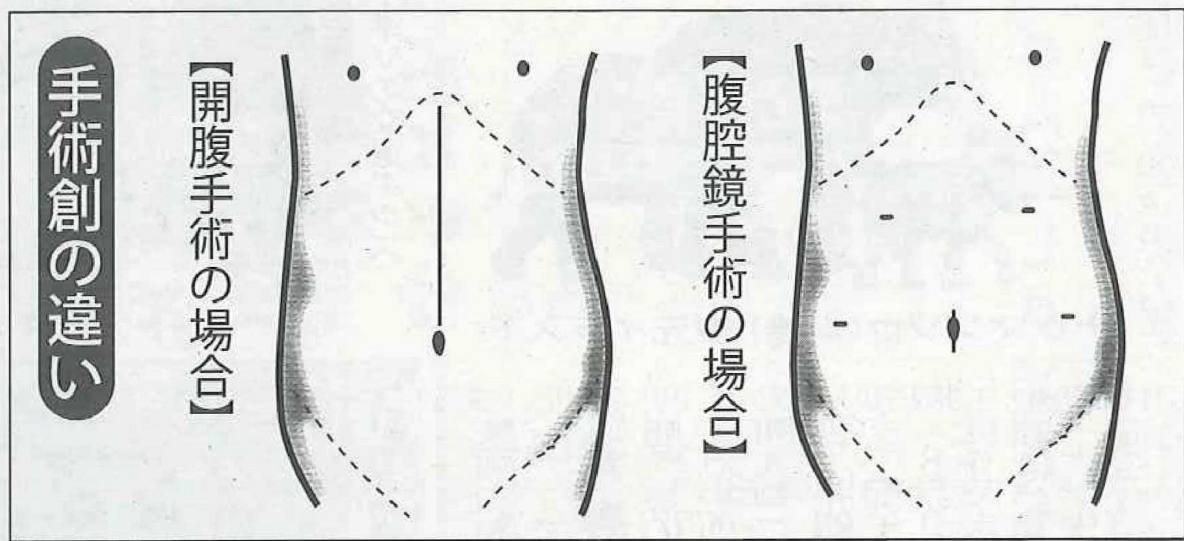
胃がんが浅くてリンパ節や他の臓器に転移がなければ、いわゆる胃カメラでがんを焼き取る「内視鏡的切除術」(ESD)を行います。胃の表層の粘膜と粘膜下層だけをそぎ取るだけなので、

◆執筆者紹介 宮下正夫 / 日本医科大学消化器外科教授 / 日本医科大学千葉北総病院外科部長 医学博士 / 日本消化器外科学会指導医 / 日本消化器病学会指導医 / 日本がん治療認定医機構認定医 / 消化器がんの早期発見と治療に広く活躍中。



がん治療に広く活躍中。

## 早期の胃がんの多くは腹腔鏡手術



手術創の違い

【開腹手術の場合】

【腹腔鏡手術の場合】

で、胃の大きさ自体は変わりません。逆に、胃がんが大きくなると、リンパ節に転移があれば手術、さらに他の臓器まで転移があれば抗がん剤治療を行うのが一般的です。

胃がんの手術方法には2種類ありま

## 他の疾患と併せ体全体の総合的な観点で治療を

す。最近では、早期胃がんの多くの患者さんが「腹腔鏡手術」を受けています。腹腔鏡と呼ばれる内視鏡をお臍(へそ)からお腹の中に挿入し、映し出された画面を見ながら手術する方法です。メリットは傷がごく小さいために痛みも少なく早期回復が目指せます。

一方、進行胃がんには従来通りの「開腹手術」を行います。胃を切除する範囲は3分の2程度です。がんの場所や大きさ次第では胃を全部摘出することもある稀ではありません。

いずれの場合でも、手術後は10日前後で退院になります。胃の容量が小さくなる分、1回の食事摂取量は減少しますが、内容と回数で補うことが肝要です。手術前より多少スリムにはなりますが、運動などを含め、通常の生活をおくることは十分可能です。

がんで治療を受ける方は、心臓病や糖尿病など他の病気を患っていることも稀ではなく、これらは先進的な胃がん治療に大きな影響を及ぼします。その意味では、胃がんの専門医だけでなく、他の領域の専門医の存在も欠かせません。からだ全体として総合的な観点で治療が受けるというのがポイントとなるでしょう。